

平成29年度 第2回生駒市子ども読書活動連絡調整会議 会議録（要約）

日 時： 平成30年3月1日（木）午後3時から

場 所： 図書会館 第3研修室

【参加者】 岩崎れい、森岡伸枝、平井富久子、山崎周子、西木由紀、
西中佳代美

（欠席） 藤原康成、山中賢司、松山裕美、辻中伸弘、吉川祐一

【事務局】 向田真理子、平澤佐千代、錦好見、中谷知子、清水淳子、廣松典子、
吉田里子（以上図書館）

1 開会

2 案件

(1) 平成29年度事業報告について

◎前回の生駒市立北小中学校視察の感想

- ・校舎内が広々としていて、人が集まれるようなスペースが多くあった。
- ・廊下や教室の前などが広く、そこでブックトークや読み聞かせができそうだった。
木が多く使われていて温かみがあり人間性が養われるのではないかと思う。小中学校で学校司書が1名なので、全部で9学年を担当する大変さがある。茶道関連の蔵書が多く、地域の特色だと思った。
- ・ハロウィンの時期に、学校司書がかぼちゃの中から種を取り出し、洗って乾燥させたものを展示し、いくつあるかを生徒に当ててもらおうクイズを実施したと聞き、生徒の興味関心をひきつける面白い取り組みだと思った。
- ・きれいで温かい校舎だった。学校は子どもが毎日過ごす場所なので、環境は大切。小学生から中学生にかけては体も大きく成長するので、家具のサイズが難しいだろうと思う。学校図書館については、選書の基準がまだ定まっていないということが気になった。先生の申し出に応えるだけでなく、読み物以外の本をどのように揃えるかが大切になってくる。地域にとって価値のある資料も保存されていたので、公共図書館と連携して利用してほしい。

◎下半期実施の主要な児童向け行事について

○北分館

- ・昨年度の図書館とまちづくりワークショップから生まれた「お茶会@北分館×茶釜のふるさと」の受講者の成果発表として「北分館でお茶会—ゆったり一服を楽しんでみませんか」を2月3日に実施。北コミュニティセンターISTAはばたきで、生駒市茶道協会のサポートのもと、子ども達が中心となって一般来館

者にお点出しを行った。小さい子どもが参加することに不安もあったが、とても立派にやり遂げてくれた。子どもが持って行くと参加者の心が和み、自然と笑顔になり温かい雰囲気の良い催しになったと思う。参加者 130 人以上。来年度も「高山茶釜の会 WiWi」と協力していきたい。

○南分館

- ・10代、20代の人をターゲットにして、本と何かをテーマとしたコミュニティをつくろうということで、「本活部@Lib×ライブ#1赤毛のアン春色キッチン」を3月17日に実施する。赤毛のアンに出てくるお菓子（フルーツケーキ、チョコレートキャラメル、いちご水）を作り、写真撮影をしてSNSにあげたり、試食したりと同世代の交流の場にしてもらおう。また「赤毛のアン」シリーズに絡むミニブックトークも実施予定。

○生駒駅前図書室

- ・1月21日に来館者100万人を達成した。（平成26年4月20日オープン、平成27年4月23日に30万人達成）100万人目は3歳の男の子とお母さんだった。市長から記念品の授与等、式典を実施した。保育園の帰りの来室で、20時まで開館している生駒駅前図書室は、お迎え帰りによく利用するとのことだった。

○本館

- ・3月3日にビブリオバトル考案者の谷口忠大さんを招いての前夜祭、3月4日に「ビブリオバトル全国大会 in いこま」を開催する。全国大会では、直木賞作家であり、10代の若者に支持されている辻村深月さんに講演をお願いしている。講演部分では市内の中学生1名と高校生2名に壇上に上がってもらい、辻村深月作品でミニビブリオバトルをしたり、質問コーナーを設けたりする。またバトラーからは中学生に読んでほしい本についてのエッセイを書いてもらい、それを小冊子にまとめ、観戦者や市内8中学校に配布、図書館・室にも配置。昨年12月開催の「生駒市長杯ビブリオバトル市内中学生大会」チャンプも出場する。

(2) 平成30年度事業計画（案）について

- 南こども園の見学、ビブリオバトル市内中学生大会の見学、講師を招いての講演会の実施など検討している。

(3) その他

- ・各校に学校司書が週3日配置され、子ども達が本に親しむ機会が増えている。絵本から読み物に移る時期にどのような工夫がなされているのか、今の子どもは読み物をちゃんと読めているのか。また、今の中学生がどのような本を読んでいるのか。そういうことについても、この会議を通して理解していきたい。
- ・子ども達の読書では、絵本から読み物へとステップアップをスムーズに進めるために幼稚園と小学校の連携が大切。図書館や学校司書だけでなく、学校の先

生の協力が大きな役割を果たす。まだあまり読めない1年生のときに、読んでもらう楽しさを積み上げていかなければならない。今の大学生も読まないのか読めないのか、読んでいても本当に楽しめているのかが分からない。

- 中学生の子どもがいるが、学校図書館でよく本を借りている。友達に影響されて大人の小説を読み始めているが、友達の話聞いて、読みたいと思ったらすぐに借りて帰れる環境が大切。それには学校図書館が重要な役割を果たす。今の中学生は忙しいので、遠い公共図書館にわざわざは行かない。子どもの読書のフロントラインは学校図書館。